2 教員採用試験合格体験記

［千葉県・千葉市　中・高共通　社会科教員合格］

感謝の心が結果を変える

経済学部 経済学科 4年 井原 弘

私が今年度の教員採用選考に合格することが出来たのは、経済学部教授小山教授をはじめ、たくさんの先生方の支えがあったからです。支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。

私がここでお伝えしたいのは、教員採用選考の合格に向けて努力するなかで感じた、日々の勉強の積み重ねや人間力向上の大切さです。

私は、3年次の5月から教員採用選考に向けた本格的な勉強を始めました。経済学部の小山先生のもとで様々なことを犠牲にして学ぶ「覚悟」というものを知り、平日は一日5時間、休日は一日10時間にわたって勉強してきました。アルバイトやテレビ、SNSなど、勉強の妨げになるものは一切やめて、勉強に打ち込む日々でした。教員を目指すには、誰しも覚悟を決めなければいけない日が来ます。後輩の皆さん、恐れずに覚悟を決めましょう。

さらに、私は人間力を向上させるための取り組みも行いました。それは、感謝や奉仕の心を育むことです。感謝の心は、日々の何気ないことにも感謝できるよう、周囲の人々をよくみて過ごし、折に触れて「ありがとう」を伝えました。奉仕の心としては、誰かの役に立つ喜びを知るために、ゴミ拾いを行いました。私がこれらのことに取り組んだのは、教員には授業を行うだけでなく、『人間を育てる』という大きな使命が課されていると考えたからです。後輩の皆さんにも、この気持ちを大切にしてほしいと思います。自分の人間性が確立していなければ、子どもたちにもその大切さを教えることができないからです。後輩の皆さんも、小さなことからでいいので実践してみてください。そして、ぜひ自分なりの「信念」を持って採用選考に臨んでほしいと思います。机上の空論と言われてしまうこともあるかもしれません。しかし、明確にやりたいことがある受験生は、教育委員会の目に留まるはずです。

私は、教育実習先でも「今日の授業でいっぱい答えてくれてありがとう」と生徒たちに伝える、放課後の掃除を絶対に手伝うなど、感謝や奉仕の心を大切にしていました。すると、担任の先生から「君の想いは生徒たちに届いているね」というお言葉をいただき、生徒たちからはネクタイと色紙をもらいました。これは私の宝です。このように、感謝や奉仕の心を重んじることで、先生方や生徒たちと信頼関係を築くことができ、とても充実した実習期間を過ごすことができました。こうした一期一会や、出会った人々との関係性の構築を、これから教員として過ごすなかでも大切にしていきたいと思います。

最後に、バトンを後輩に託します。敬愛大学のバトンを皆で繋いでいきましょう。頑張ってください。皆さんの健闘をお祈ります。

［千葉県・千葉市　小学校教員合格］

誰にも負けない『武器』を

国際学部 こども教育学科　4年　金久保　憲司

はじめに

私は千葉県・千葉市教員採用選考に大学推薦枠で合格しました。教員採用選考に合格できたのは、大学生活で経験したことが大きかったと考えています。それは授業をはじめ、教育実習、そして教育ボランティアの経験であり、私の成長に繋がりました。

ここでは、私が教員採用選考を受けるに当たり、どのように取り組んできたのかを述べていきたいと思います。私の経験が後輩の皆さんに少しでも参考になれば幸いです。

一次選考

私は一次選考が教員採用選考の中で一番不安でした。その理由は、小論文、集団面接ともに経験の豊かさではなく、教育についての考えを持っているかどうかが求められるからです。そのため小論文では、見本を参考にしながら「自分だったらこう書く」と考えながら練習をしました。

集団面接では、学内の対策講座の中で練習しました。その際、「周りの学生、先生は、何を重要と考えているのか」「話の流れはテーマからそれていないか」を考えながら受けていました。自分自身の考えの"引き出し"を増やすこと、状況を見て考えを発表することを学び、一次選考突破に繋がりました。

二次選考

二次選考は自分の『武器』が生かされるので、「絶対に合格する」という気持ちで挑みました。私の『武器』とは「放課後こども教室」のボランティアでの経験です。ボランティアでは、責任者として企画・運営を行い、4年生の時には英語教室を行いました。責任者として会議に出てさまざまな人と関わることで、団体をまとめ一緒に行動するための責任の重さを学びました。さらに千葉では、英語に関する経験をしている人を求めているので、英語教室は強みになりました。

おわりに

このように教員採用選考に合格するには、「教育に関する関心」と「自分の強みとなる『武器』」が必要であると思います。「教育への関心」を持つためには、常に教育問題にアンテナを張り考えていること、そして実際に現場に訪れて学んでいくことが大切です。

「強みとなる『武器』」は、人によってそれぞれ違います。例えば「大学祭の実行委員を経験」「ボランティアをした」「留学した」など、一人ひとり違う経験をしている中で、何が『武器』になるのか、そこで何を学んだのかを考えることが必要です。そして『武器』は、採用選考を突破するためのものではなく、将来、教師として教壇に立ったときにどう生かすかを考えるとより強くなると思います。皆さんは、さまざまなより濃い経験を通して『武器』を持ってください。また、悩むこともあると思いますが、教員の方や友人に相談したり、力を借りるなどをして乗り越え、教員採用選考に臨んで下さい。応援しています。

［千葉県・千葉市　小学校教員合格］

小さな積み重ね

国際学部 こども教育学科　4年　小沢　恵

私は小学校６年生の時の担任の先生に憧れ、約10年間、「教師になる」という夢を追い続けてきました。

そして、教員資格を取得するめに教育実習の最終日を迎えた時、子どもたちに「試験に絶対に合格して来年私たちの担任の先生になってください」と言われたとき、夢の実現のために最後まで「自分らしく頑張ろう」と改めて思いました。子どもたちの言葉を励みに努力し、その結果、夢だった教員採用試験に無事合格できたことを大変嬉しく思います。

教員採用試験を受験するに当たり、大学の先生方や職員の方々、「ちば！教職たまごプロジェクト」をはじめ、教育実習や学習サポーターでもお世話になっている小学校の先生方、友人、家族など、多くの方々から温かいご支援、ご指導をいただいたことに心から感謝申し上げます。

ここでは、私が大切だと感じたことなど、経験を踏まえて記していきます。少しでも参考になればと思います。

たくさんの経験と人との関わり

私は、「ちば！教職たまごプロジェクト」や地域の小学校へのボランティアをはじめ、学校行事、地域行事へ積極的に参加しました。それによってさまざまなことを実際に自分の目で見て、経験して、感じることができました。気づかなかった「見方」「考え方」は、経験したからこそ分かるもので、さらにその場の実際を知り、自分の視野を広げることができました。

たくさんの人と関わることにより新しい発見があると同時に、何事も誰かが動いているから成り立っているものであることに気づいて、相手に感謝の気持ちをたくさん伝えられるようになったと感じています。「当たり前のことが当たり前にできる」ことが人として大切なことだと改めて感じることができました。

教員採用試験の勉強ももちろん大切ですが、学生の今しかできないたくさんの経験をし、自分自身の目で見て、感じて、それらを将来子どもたちに伝えられるよう日々の学生生活を充実させてください。そして「当たり前のことが当たり前にできる」ようにたくさんの人と関わってください。

試験対策について

私は特別に勉強ができるわけではないので、一次試験対策は基礎の基礎から学び直し、過去問題を中心に一つずつじっくりと問題を解き、勉強をしました。教科によっては高校入試問題を解いたり、過去のノートを見返したりしました。

二次試験に関しては大学の試験対策講座に参加し、対策をしました。集団行動では、対策講座終了後に数人で集まり、みんなと確認しながら繰り返し練習しました。面接では、過去の自分を振り返り、ノートに描きだしました。模擬授業では、教育実習での経験を活かし、友人の授業、先生や先輩方のアドバイスをノートに毎回まとめました。当日は緊張しましたが、最後まで「自分らしく」を貫き、試験に臨むことができました。

追い続けてきた「教師になる」という夢が実現しましたが、いよいよ次のステップを歩みます。

［千葉県・千葉市　中・高共通　英語科教員合格］

憧れだった高校教師への歩み

国際学部 こども教育学科　4年　渡邉　日陽里

はじめに

この度、千葉県・千葉市教員採用試験に合格し、夢だった高等学校教員へのスタートラインに立つことができた。暖かくご指導してくださった、大学の先生をはじめ、事務職員の方々、教育実習先、学習指導員先の先生方へ心から感謝申し上げます。

教採への努力＝日々の努力

実は、私は教員採用試験に対し、思うように力を尽くすことができなかった。おそらくそれは、新卒で教員採用試験に受かりたいという気持ちよりも、数年掛かったとしても高校教師になりたいという気持ちが強かったからだ。そのため、合格発表会の際に、周りの人たちが一日何時間も勉強していたという話を聞いて、罪悪感を強く感じていた。しかし、この話をゼミ担当の林次郎先生にすると、思いもよらない答えが返ってきた。「本来は日陽里のような学び方が理想なんだよな」と言われたのだ。私は教員採用試験に対して、直前に追い込むことはできなかったが、大学四年間の教職課程での、模擬授業や指導案作成は誰よりも力を入れてきた自信がある。この日々の積み重ねが合格に繋がったのではないかと今では思うことができている。

試験について

・一次試験

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、集団討議が中止となり、筆記試験のみとなった。私は東京アカデミーの講座や学内プログラムに参加できなかったが、積極的に活用するべきだろう。私は、教職教養、専門教養共に過去問を解くことを大事にした。センター試験や英検、TOEICなどどの試験でも同じことが言えるが、問題の形式や傾向はその試験によって大きく異なる。まずは受ける試験を「知る」ことが大前提だ。

・二次試験

面接、模擬授業、ALTとのインタビュー、チームティーチングなど実技中心となる二次試験は、いかに練習し慣れるかが重要となる。いずれも井上先生主導のもと、中高共通英語科の試験を受ける国際学科のメンバーと二次試験対策に挑んだ。ALTが関わる試験は、実践的な英語力が求められるため、プレッシャーも強く大変苦戦した。

おわりに

私は大学受験に失敗し一度挫折を味わったが、敬愛大学で出会った仲間や先生方のおかげで前を向き、四年間教職に真剣に向き合うことで、夢を叶えることができた。後輩の皆さんも、大学生活の限られた四年間を無駄にすることなく、視野を広げ、様々なことに全力で向き合い、後悔のないよう過ごしてほしい。私もスタートラインに立った今、周囲への感謝を忘れず、素敵な先生になるという新しい目標を胸に精一杯生きていきたい。

［千葉県・千葉市　小学校教員合格］

教職に向けて

国際学部 こども教育学科　4年　鈴木　舞花

私は千葉県・千葉市教員採用選考に合格することができた。小学生の頃から憧れていた教師になる夢を叶えられることをとても嬉しく思っている。合格できたのは、大学の先生方・職員の方々、教育実習や「ちば！教職たまごプロジェクト」でお世話になった先生方、家族、友人などのおかげである。この場をお借りして感謝申し上げたい。今回、私が教師を目指す上でしてきたことや大切だと思うことを述べていく。

子どもたちと関わる活動に参加する

私は子どもたちの実情を把握したり、関わり方を学んだりするために、子どもたちと関わる活動に積極的に参加してきた。学校で学んでいる姿を見るために「ちば！教職たまごプロジェクト」に、普段の姿を見るために教育ボランティアサークルや地域のボランティアに参加した。そのおかげで私なりの児童への接し方を考えることができ、二次試験の面接では場面指導に対しての質問に戸惑うことなく答えることができた。

何事にも挑戦する

子どもたちと関わる活動の他にも、敬愛フェスティバルの実行委員や宮城ボランティア、海外スクーリングなど、さまざまなことに挑戦してきた。それらの挑戦の中で、人との接し方や指示の出し方などたくさんのことを学ぶことができた。また、活動で関わった方々からさまざまなことを学ぶことで、自分ひとりでは気付くことができなかった新しい発見をすることができた。ぜひ、多くのことに挑戦し、自分の糧としてほしい。

仲間と協力する

今までの授業での班活動や課外活動などで仲間と協力してきた。それらの積み重ねのおかげで、一次試験・二次試験においても、仲間と協力し合格に繋げることができた。一次試験においては、大学推薦で受験する仲間と、さまざまな教育問題についてどのように考えるかの意見交換をした。二次試験においては、模擬授業に向けてどのような授業を考えたのかを交換し合い、互いに高め合いながら受験に臨んだ。コロナ禍で教員採用選考について不安なことが多かったが、仲間とZoomを使って共有することができたのが、不安を軽減し、合格に導いてくれたと思う。ただ情報を与え合う関係というわけではなく、互いに切磋琢磨できるような関係性をつくり、合格に繋げてほしい。

教職への熱い思いが、合格へときっと導いてくれる。そして、教師になるために一生懸命努力していってほしい。私もこの4年間の学びを生かし、子どもたちから信頼される教師になるために、努力していく。